

DRUK

55



CONTENTS

- 隊員自己紹介＆私のお気に入り … 3ページ
- 新隊員に告ぐ！！これだけは持ってきた方がよろしくてよ！なアイテム … 19ページ
- ブータン旅行記・体験記 … 26ページ
- 活動の悩みとグチのシェアおよびその反転とアクションプラン(AP)作りの座談会 … 31ページ
- 帰国後キャリアに悩む若手隊員が、経験豊かな企画調査員＆シニア隊員と今後について語る座談会 … 39ページ

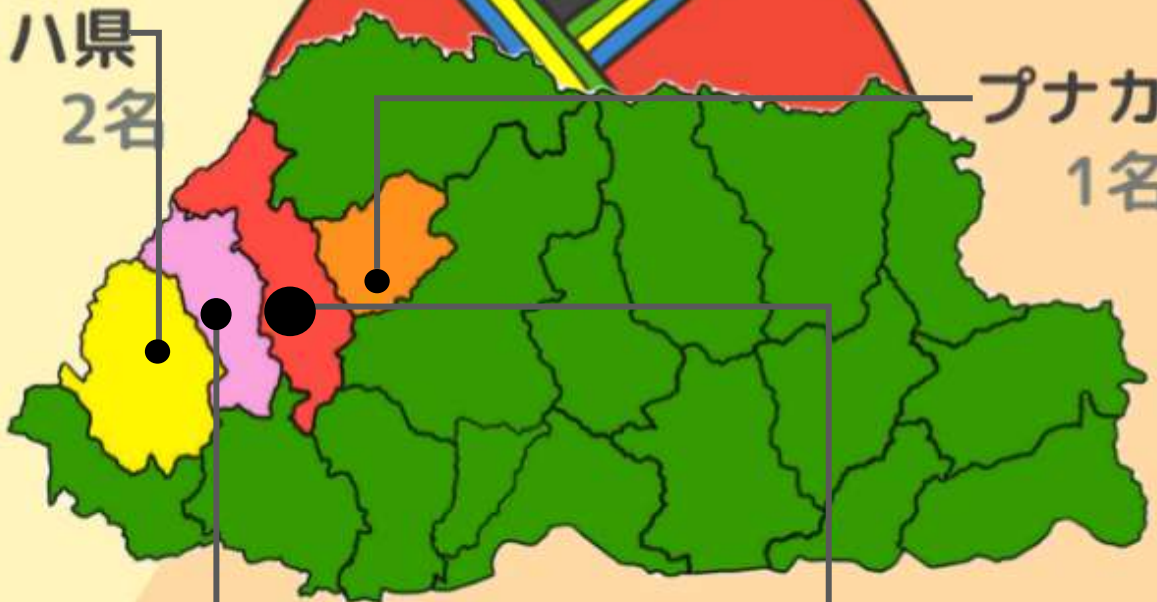
自己紹介



2024年1月現在の
隊員配置ダヨ。

ハ県
2名

プナカ県
1名



パロ県
4名

ティンプー県
22名



ティンプー県



名前 鈴木 育則 (2019-3 / コンピュータ技術)

配属先 ティンプー県 政府技術庁(GovTech)

活動の概要
ブータン政府で使用されるITシステムの開発と同僚たちへの技術指導をしています。

私のブータンお気に入り

私のお気に入り、ティンプー市内にあるナショナル・メモリアル・チョルテンです。特にチョルテン内部の立体曼荼羅はずっと見ていられます。



名前 山中 睦子 (2021-7 / 手工芸)

配属先 ティンプー県 ダクツォ青少年障害者職業訓練センター

活動の概要
ぬいぐるみのサンプルを作り、それを大量生産できるようにパターンやゲージなどを準備し、同僚の先生達や生徒達に教えて、いっしょに生産を行っています。

私のブータンお気に入り
ポップジカ





名前 小島 海治 (2022-7 / 音楽)

配属先 ティンパー県 デチエンチョリン小中高等学校

活動の概要

小学6年生から中学3年生までの全クラスの生徒に音楽を教えてます。

私のブータンお気に入り

ダンリナという田舎町。家のすぐそばにフィットネスジムがあり、そこには勢い良く出るホットシャワーがあります。その会員になり日曜以外毎日通っています。また、そのすぐ近くにおしゃれなピザレストランがあります。すごくおいしいです。



名前 福井 勇貴 (2022-7 / 柔道)

配属先 ブータンオリンピック委員会
ブータン柔道協会

活動の概要

初心者から国際大会出場を目指すナショナル選手までの約250人の現地人柔道選手への指導と、協会運営に対する助言。年2回行われる国内試合、昇級試験のマネジメント。

私のブータンお気に入り

ティンパーにある Urban Dumraというビアガーデンの Tap Beerが美味しい!





名前 岩佐 幹生 (2021-4 / 労働安全衛生)

配属先 ティンブー県 建設開発公社

活動の概要

ブータン国内の現場や作業場を回って、工事現場の安全指導をしています。

私のブータンお気に入り

ここの人は誰でも遊びの仲間に入れてくれます。
30年振りにテニス再開しました。



名前 新保 比奈子 (2022-7 / 看護師)

配属先 ティンブー県 ジグミ・ドルジ・ワンチュク国立病院

活動の概要

ジグミ・ドルジ・ワンチュク国立病院の救急外来で活動しています。EMRという救命救急士と活動しているため、救急車の要請があれば救急車に同乗します。

私のブータンお気に入り

ティンブーより他県に向かう途中の自然の景色に癒されます。
写真は、チェリに行った時の写真です。
福井県の実家にもこのような自然の光景があり、日本を思い出します。





名前 竹内 理 (2022-7 / 看護師)

配属先 ティンブー県 ジグミ・ドルジ・ワンチュク国立病院

活動の概要

新生児集中治療室で同僚看護師に新生児看護を指導しています。

私のブータンお気に入り

Pumolaにあるブランコ。標高約4000mに設置されているブランコから市内が一望できます。高所恐怖症じゃなければ是非。



名前 熊田 淳 (2022-1 /きのこ栽培)

配属先 ティンブー県 国立きのこセンター

活動の概要

シイタケ、ヒラタケの栽培安定性の向上、ナメコ等新規きのこの栽培法の開発と普及、輸出を目指す加工品開発を支援しています。

私のブータンお気に入り

マツタケの主要産地のウラは、スイスに似た景観で貴重な野生きのこの宝庫です。数年間滞在して育種と系統分類の研究に専念したいと思いました。





名前 渡辺 弘海 (2022-1 / 土木)

配属先 ティンプー県 インフラ・運輸省

活動の概要

学校建設計画および建設事務所にて勤務していましたが、省庁再編により病院建築現場にいます。

私のブータンお気に入り

任地はティンプーで新しい建物が宿舎なので、日常生活に不便は感じません。ただ、食べ物の食材は大半がそろいますが、辛いものが多いのには閉口しています。辛いにもほどがある。また、生活の基本が仏教に根差しているの、我々からすると違和感はありません。



名前 鈴木 宏幸 (2022-2 / 美術)

配属先 ティンプー県 国立伝統工芸学院

活動の概要

彫刻科の生徒に現代塑像彫刻を教えています。またその他に、国際公募展への学内での広報や出品作品の取りまとめをしています。

私のブータンお気に入り

空がとっても青くて綺麗です。目の前の山が輝いて見えたり悲しく見えたりします。





名前 田辺 和 (2022-2 / 理学療法士)

配属先 ティンプー県 ゲルツェン・ジツェン・ペマ母子病院

活動の概要

妊婦さん、産後のママに向けて妊婦体操を行っています。

私のブータンお気に入り

BABESAのレストラン、Heritage Home。
歴史ある建築の中で美味しいブータン料理が食べられます。粟を発酵させて作られた伝統的なお酒Tongbaが飲めます。竹でできた容器に竹のストローをさして飲みます。無くなったらお湯を足して3杯くらい飲める、冬にぴったりのお得なお酒です。



名前 鍋田 肇 (2022-2 / 農林統計)

配属先 ティンプー県 農業・畜産省

活動の概要

配属先が発行する農業統計集の作成(特に質向上、図表導入、分析)が主な活動です。
他に農業農村開発事業に少し従事しています。

私のブータンお気に入り

ブータンは素朴な暮らしが魅力的です。
製造業があまりないので物資は輸入品で高いですが、その分暮らしが素朴です。食べ物もシンプルです。単調ですけど。笑





名前 村中 裕希 (2022-2 / 看護師)

配属先 ティンプー県 ジグミ・ドルジ・ワンチュク国立病院

活動の概要

小児集中治療室で0~15歳くらいまでの子どもの救急救命に携わっています。

私のブータンお気に入り

Phobjikhaは夏も冬も行きましたが、どちらも景色が良くて私のお気に入りです。とくに冬にしか見られないオグロヅルは貴重なので、ぜひ見に行ってみてほしいです。道中は車酔いしやすいので酔い止めを推奨します。



名前 江面 和彦 (2022-2 / 獣医衛生)

配属先 ティンプー県 国立動物病院

活動の概要

主にペットとしての犬・猫の外来診察と各種外科処置を行っています。

私のブータンお気に入り

ブータン人の信仰心に篤いところと親切なおもてなしには感動しました。





名前 熊澤 美帆 (2022-3 / 障害児・者支援)

配属先 ティンプー県 チャンガンカ小中学校

活動の概要

特別支援教育部門にて美術教育に携わっています。

私のブータンお気に入り

壮大な山々に包まれて過ごすことができていることです。



名前 村井 瞳 (2023-1 / 水資源開発)

配属先 ティンプー県 エネルギー自然資源省

活動の概要

水力発電ダムの設計を担当する職員に、無料ソフトを使用した川の水量、はん濫範囲等の予測計算方法を教えています。

私のブータンお気に入り

ティンプー川沿いのフットパスです。長閑でお散歩にちょうどいいです。終点がサブジバザール(野菜市場)なので、お散歩の後にご飯を食べたり、お買い物をしたりできるのもまたお気に入りの理由の一つです。





名前 岡崎 悠作 (2023-1 / 道路)

配属先 ティンプー県 インフラ・運輸省

活動の概要

全国の国道の新設や維持管理についてサポートしています。特に、多発するがけ崩れ対策を取り扱っています。

私のブータンお気に入り

みんなの空気がゆっくりしていて、のどかな自然を楽しめるところ。
写真はサブジバザール(野菜市場)近くの橋で犬が川を見守っているところ。



名前 小原 陽子 (2023-2 / 観光)

配属先 ティンプー県 政府観光局

活動の概要

観光開発、促進のための活動をします。現在は主にとある観光施設の運営ガイドラインを作成しています。

私のブータンお気に入り

まだブータンに来て2か月ほどですが、ブータンにもおいしいケーキはあるんだと知りました。Madoka Bakeryのチーズケーキもその一つです。ほかにもいろいろ試してみたいです。





名前 新原 菜香 (2023-2 / 臨床検査技師)

配属先 ティンブー県 ジグミ・ドルジ・ワンチュク国立病院

活動の概要

病理部細胞診ユニットでスタッフとして働きながら、同僚に対して技術指導を行っています。

私のブータンお気に入り

辛い食べ物が好きなので、ブータン料理全般気に入っています♪



名前 大津 葵 (2023-2 / PCインストラクター)

配属先 ティンブー県 デチェンチョリン小中高等学校

活動の概要

生徒のICT教育に携わる予定です。

私のブータンお気に入り

家の近くの公園みるのが好きです、まだ行ってませんが。笑
ローカル料理だとThukpaが気に入ってます！





パロ県



名前 北川 伸二 (2021-7/ 金属加工)

配属先 パロ県 FMCL (Farm Machinery Corporation Limited.)

活動の概要
配属先の農機具製造部門にて、プレス金型の設計と製作指導を行っています。

私のブータンお気に入り

お気に入りその1 「にゃんこちゃん」
借りているアパート近辺を縄張りにするメス猫。いつの間にか仲良くなり、職場から戻るとアパートの門前でいつも待っていてくれる。情が深くなるのを避けるため、特に名前は付けてはいないが、首元をなでると秒速でのどを鳴らしては直ぐに横になり甘えてくるにゃんこちゃんです。



お気に入りその2 「アングルチップス」
ブータンで販売されている多くのポテトチップスはインド製の激辛が多く、日本人の口に合いにくい。アングルチップスには塩味Ver.が有るのは有難い。ただ、置いているお店が少ないのが難点。そのため見つけるとついまとめ買いをしてしまう。



名前 浅田 瑠理 (2022-4/ 野菜栽培)

配属先 パロ県 FMCL (Farm Machinery Corporation Limited.)

活動の概要
FMCLが保有する農場で野菜栽培の指導&支援をしています。

私のブータンお気に入り

ミルクティー文化が好き♡お寺や誰かの家に行っても、「まずはお茶をどうぞ」ってしてくれるのがホッとする～。あと、動物がそこかしこにいっぱいいるのも癒されポイント。最近は皆冬毛がもこもこで可愛さ倍増♡





名前 花里 さくら (2022-2 / マーケティング)

配属先 パロ県 FMCL
(Farm Machinery Corporation Limited.)

活動の概要
自社農場で収穫した農作物の販路拡大など。

私のブータンお気に入り

ドツォ(焼き石風呂)、とにかく冬はドツォ！
お風呂にお菓子を持ち込んで3時間のんびり過ごす
のは至福の時です。芯まで温まるのでよく眠れる～



名前 石垣 稔 (2022-3 / 農産物加工)

配属先 パロ県 国立ポストハーベストセンター

活動の概要
農民と学生に加工食品の商品開発・製造指導を行って
います。また、配属先スタッフとセルフライフ研究を
行う予定です。

私のブータンお気に入り

ハで養殖されたニジマスを配属先で冷燻
にして冬期限定好評試作中！
パロ北部のオークションで最高値で落札
されたNu350万/Kgの冬虫夏草。軽く
スモークのかかったクリームチーズみた
いでシニアの秘薬です。





八県



名前 大内 巴瑠子 (2022-1 / 体育)

配属先 八県 カツオ小中学校

活動の概要
ClassPP(年長)からClass8(中学2年生)の体育の授業を担当しています。授業の他に、運動会の企画・運営やソーラン節の演技をしました。

私のブータンお気に入り
ブータンのティータイムが大好きです。
お茶のある所にブータン人あり。どんなに授業が忙しくても、ティータイムにはみんなが集まり、お茶とお喋りを楽しむのが良いなあと思います。
日本にもこの文化がほしい！



名前 高江洲 佳絵 (2023-1 / 体育)

配属先 八県チュンドゥーアームドフォース小中高等学校

活動の概要
年長さんから高校一年生の生徒に体育を教えています。

私のブータンお気に入り
私のお気に入りの場所は、学校の敷地内にある小さなショップです。ここで、お気に入りの5ニユルのチョコを、学校が終わったらご褒美に買うのが私の日課で、楽しみでもあります。
他のご飯も美味しいです。
ぜひ八の学校に遊びに来てください♪





プナカ県



名前 山本 あすか (2022-7 / 体育)

配属先 プナカ県 クルタン小中高等学校

- 活動の概要
1. 体育授業の実践
 2. 指導方法についての助言、人材育成
 3. 課外活動等の支援を通じた保健体育科教育の普及・発展

私のブータンお気に入り

プナカ県にある川(MochuとPochuの二つの川がプナカゾン付近で合流し、Punatsangchuという一つの川になる)。散歩しながらのんびり眺めるのがおすすめ。特に乾季は水の流れが穏やかで、透き通っていてきれい。
写真はKhamsum Yulley Namgyal Chortenからの眺め。



ボランティア
調整員さん



名前 佐屋 達紀

JOCV時代 (2007-3 / 自動車整備 / ケニア)

活動の概要

隊員の皆さんの活動を陰ながらサポートさせて頂いています。

私のブータンお気に入り

任地訪問した際に、皆さんの頑張っている姿、活動している姿が見られる配属先が私の一番のお気に入りの場所です。



名前 橋村 清佳

JOCV時代 (2015-1 / コミュニティ開発 / ネパール)

活動の概要

ボランティア調整員として、教育、インフラ、スポーツ分野などを担当しています。

私のブータンお気に入り

ブータンの風景。夜のライトアップされたゾンとか、棚田とか、遠くにみえる雪山とか。何気ない風景に癒されています。

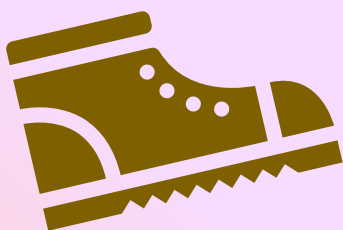


新隊員に告ぐ！！



これだけは
持ってきた方が
よろしくてよ！

な **アイテム** 聞いてみました。



昔に比べると、だいぶ手に
入るものが増えたと言わ
れるブーツタン。
それでも、「あれ持つてく
ればよかったな〜」なんて
思うことがちらほらあり
ます。
そこで、現役隊員に持参し
て役に立ったアイテムは何
か、大調査してみました！

食品系

あの食材が圧倒的1位に！長い派遣期間では日本の味が心の支えになります♡



7票

出汁

全アイテムを通じての最多得票は出汁に決定！出汁への熱い声が沢山寄せられています。ブータンでは入手不可のため、日本好きは絶対持参すべし。

自炊するなら絶対持ってきた方がいいです！ちょっと加えるだけで日本の味！ブータンで見かけたことないので普段使い慣れたものを持ってきましょう♪

自炊が基本になったので出汁はたくさん使います。



出汁のない味噌汁は悲しすぎます。

食材はほぼ日本と同様にそろうので味付けが欲しくなる、めんつゆも重宝します。

ブータンには日本のだし系の調味料が売られていない。やはり、日本人なのか出汁系のものが食べたくなる。そんな時に重宝する！例えばだしパックを利用して麺つゆを作ったり、味噌汁を作ったり、パスタのソースにしても美味しい。

2票

ソース

ブータンでソースは売ってません。

インスタントラーメンはブータンでも購入可能であるが、インスタント焼きそばは無い。ラーメンも良いが、焼きそばも無性に食べたくなる時があり、この焼きそばソースパウダーがあるととても便利だ。



不思議とトンカツを揚げはじめた隊員多し。カツにソースは欠かせません！ソース焼きそばの粉と現地調達した麺の合わせ技をする上級者も。

1票

乾燥ワカメ

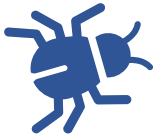
海の無いブータンに海藻があるはずない。(韓国からの輸入品はあるよ)
乾燥ワカメや昆布があると便利!ちなみに昆布が売ってるのは見たことないなあ...



ミネラル、食物繊維を豊富に含んでいて毎日摂りたい食品です。軽いし水で戻せば増えるので荷物に加えることをおすすめします。

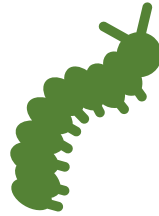
便利グッズ系

日本の便利グッズクオリティは半端ない。ぜひ渡航にお供して!



スプレー缶じゃないの
で預け荷物で預けられ
ます。1スプレーするだ
けでしばらくするので、
が退治されているので、
夏場の蟻が多い時期に
重宝しています。

ブータンでもノミ・ダニの被害があり、職場、レストラン、ホテル、友人宅とどこでも被害に合う可能性がある。ここではノミ・ダニといえども殺生(駆除)はタブーなので、かゆみ止めのクリームも必須アイテムである。



2票

虫対策

自室からホテルまで神出鬼没のあいつら。便利グッズで対抗しよう!
但し、信仰深い人の前で殺虫は配慮が必要ですので要注意。
おすだけベOPPと商品名の指名も入りました♡

2票

良いカメラ

ブータンはフォトジェニックな景色がいっぱい!ぜひ良いカメラで思い出に残して。
こちらの人は自撮りが大好きだから、高スペックなカメラがあれば人気者になること間違いなし!

ブータンは映えスポット多し&いい写真撮ってあげると喜ばれます。



ブータンは景色が綺麗ななので、一眼レフを持ってきて本当に良かった!と思っています。軽くてコンパクトなミラーレス一眼などがおすすめ。

便利グッズ 一票部門

折りたたみの雨傘兼日傘
ブータンの折りたたみ傘は重いで
す。雨期は日差しも強く、にわか
雨もあるので重宝します。



惜しくも一票ずつし
か入らなかつたもの
の「なるほどなく」
と思うアイテムが沢
山寄せられました。
日本で便利なものは
ブータンでもやっぱ
り便利！渡航前に百
均や雑貨屋などを一
周してチェックする
のが◎。

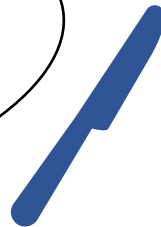
百均で100枚位あるビニール袋
肉の冷凍用！あとは野菜とか、食品しま
うのに何かと使えるし、旅のときの仕分け袋
にもしてる。実はティンペーの
komonoyaってとこで売ってるけど、
500円くらいする。



養生テープ
ブータンで売ってると見た
こと無い。全体的にテープの
質が悪くて、ベトベトなのが
多い。なにか貼り付けるときも
養生テープで十分つくし、の
り残りがなくてよい。

小さめの安全ピン
男性用民族衣装のゴの袖口(ラゲ)
を止める時に使います。ゴ1着につ
き8個ぐらい必要です。ブータンで
も購入できますが、日本のものの方
が鋭くて使いやすいです。活動時に
ゴを着ようと思っている方はぜひ。

**ダイヤモンドシャープナー
(的なもの)**
ブータンの塊肉をさばくのに切れ
る包丁は必須アイテム。



電子書籍
ブータンに限らず、
海外にはいつも
持っていきます。

旅行用小分けボトル
ブータンで入手出来ても液漏
れする！旅行の荷物を軽量化
したい人は推奨。

服装・防寒系

ブータンの冬は寒い！信頼できるアイテムと一緒に冬を乗り切ろう。

3票

登山靴

ヒマラヤ山脈の国
ブータンは登山天
国！お寺参りだつて
登山をして目的地
を目指すこともしば
しば。現地の人と一緒に
登山を楽しむために
も、登山靴はかなり
推奨なアイテム。

アウトドアを楽
しみたいなら
持ってくるべし。

特に現場ありそう
な人！ブータンの
現場＝登山でし
た。足首がやばい
です！

同僚から登山に絶
対誘われると思う。
登山道具が一式あ
ると安心！



2票

レギンス

意外と盲点だけ
ど、民族衣装の
下は生足！特に
男性のゴは丈が
短いから冬は激
寒。皆が大好き
な、あの商品
を推す声多しです。

ゴを着る人は雪が降る日も生
膝になるので、黒のヒートテッ
クが必要です！膝はヒートテッ
クだけになるので極暖・超極
暖くらいが良いと思います。



1票

服装・防寒 一票部門

回答者の趣味が分
かれた結果に。現
地調達派か持参派
かでも持ち物はだ
いぶ変わってくる
ところ。商品クオリ
ティは、商品クオリ
ティは日本が圧倒的
勝利！自分に必要
なものを厳選して
みて。

着る毛布

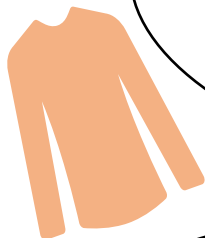
あったかくて可愛くて、冬のお部屋時間が幸せになります。

バスローブ

ホテルにある様な綿のバスローブ。どんなに寒い日でも、チョロチョロとしかお湯が出ないシャワーでも、ずぶ濡れのまま羽織って暖か。北部ガサの温泉には必携。

使い捨てカイロ

ブータンの建物は寒い！使い捨てカイロがあるととても便利。



ダウンジャケット
ブータンの冬はとて
も寒いですが、ブータン
でも買えます。

羽毛布団

ブータンに長年滞在していた専門家の方に勧められ、着任前にEMSでブータンに送付。寒い冬場でも快適に睡眠できるため、必須アイテムの一つと言える。なお中国製の電気毛布はティンパーで購入可能。

薬・美容系

使い慣れたものが一番！特に薬は郵送不可とされているから多めに持ってきて。

3票

胃・風邪薬

辛くて油が多い食事、お腹を壊すのは避けて通れない道…。また、日本では風邪すらひかなかつたという人でも、こちらでは体調を崩すことも。薬を使う機会が無いのが一番だけども、やっぱり備えあれば憂いなし！

水あたりは二・三回は必ずすると思いますので、おなかの薬はマストアイテム。

ブータン料理は油や唐辛子の量が多いです！胃の調子が良くなる時期があったので、持ってくることをオススメします！



風邪をこじらせ大変なことに。ブータンの病院は激混みな上、欲しい薬が貰えないこともある。日本の市販薬をもっと持ってくればよかった(涙)

2票

酔い止め

ブータンの長距離移動はバスです！舗装されている道路でも、山を一個越えるためにクネクネした道を通ることがあるのがオススメです！

くねくねの山道が多いので、地方出張の多い職種で車酔いしやすい方は、多めに持ってきておくと安心です。



他県に行くには必ず迎えの峠越え。ブータンの道はすべて山道と言っても過言ではない！こちらで入手できる酔い止めの成分には「？」が付くという意見もあるため、車酔いをする人にとつてはマストアイテム。

1票

化粧水・クレンジング

強い日差しと乾燥で肌ダメージは大。ブータンでもスキンケアグッズは手に入るものの、ライオンナップは少ないめとお高め。二年後の自分のお肌を守るためにも、肌にあつたものを持参すると安心！



化粧水とクレンジングはあんまり売ってません！

斬新系

独特で斜め上の回答編。でも意外と役に立つものかもしれない！？

1票

自分の パーソナルなもの



好きな絵、友達との写真、一緒に寝ているぬいぐるみ、お気に入りの本等、生活する上では使わないけれども見ることで自分が安らぐ好きなもの。少ない荷物にいれるのははばかれるが、来て最初の寂しさが紛らわせるし、自分の家に置いておくことで心の安らぎになる。

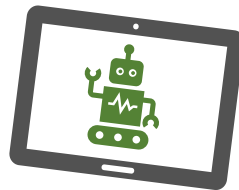
1票

素朴を 楽しみたい心

ものが余りない街や道を、ボートとしながら歩く時に使うと良い。

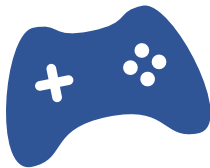


飛行機の暇つぶしに。ボタン人同僚とおそろい分けプレイができるかも。



1票

ポータブル ゲーム機



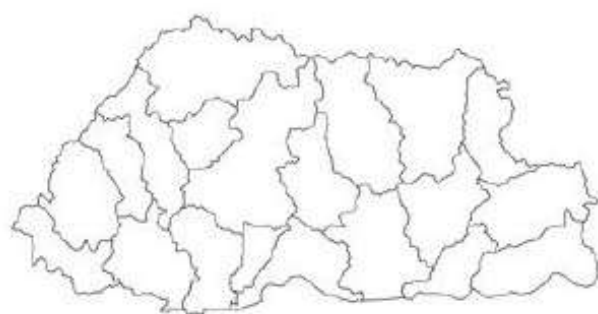
いかがだったでしょうか？
なんでも手に入る日本と比べ不便さを感じることもあるブータンですが、工夫してやりくりするのもまた楽しかったりしますよね。
最近驚いたことは、隊員の皆さんの旅上手さ！必要な荷物の取捨選択がはつきりしていて、どんな過酷な旅でも少ない荷物で行つちやえることにびっくり。
隊員生活で確実にサバイバル能力が上がっています。笑
今回の調査で多くの隊員から回答を頂き、楽しい記事を作ることができました。ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました！

Travel to BHUTAN

信仰

Pangrizampaでの厄除け宗教儀式は、年一回の大規模イベント。入場まで3時間並ぶが、ここへ行くと自宅でプジャをしたことになるという。(花里さくら)

ブッダポイントの仏像のスリムさを見て、ブータンは仏像でさえ節制しているのか! となった。(大津葵)



民族

ハのお正月行事ロンバは、現地の人たちにとって大切な行事。名物のヘンテ(そば粉で作った餃子)をたくさん食べたり、お祭りを催したりする。小さなお祭りだが、アットホームな雰囲気がとてもよい。ヘンテも各家庭で形や味が変わっており、おもしろい。(高江洲佳絵)

ブムタンでの民泊体験では、民間療法を担う地域のリーダー宅で宿泊。ミルクティーとクッキーのもてなしから始まり、ブータンの伝統料理と自家製のアラというお酒を振る舞ってもらう。大変豪華な仏間で就寝し、厳かな雰囲気でも過ごすことができた。起床すると、ストーブで部屋はすでに暖かくなっており、すぐにバター茶を入れてくれた。朝食は炊き立ての白米とサラダ風エゼ、豆スープのみだったが、その美味しさとおもてなしに感動を覚えた。(江面和彦)

ブムタンの小さな農家へ民泊。標高3800mの山頂は岩場となっていて仏像が安置され、そこでひととき夕景を楽しみ、瞑想をした。普段の生活を大切にしていることが伝わる家族からのおもてなしに感動を覚えた。(江面和彦)

登山

ジミランツォはロングコースだが湖が本当に美しく、頑張る甲斐がある。ルンタとヤクの群れなどブータンの要素満載で個人的ベストスポットの一つ。（浅田瑠理）

ジョモラリルートは有名なルートだけあって、周囲の山の高さも川の急さも岩の大きさも日本とはスケールが違って綺麗。（村井瞳）

交通

農業政策案について意見交換へ向かう道中は、地形が厳しく、道路が怖かった。（鍋田肇）

途中で一泊250Nuの宿に宿泊するローカルバスの旅は、乗客との距離が縮まり飾らない姿が見られる。地域により言語が異なり、リズムや音の違いを楽しめる。（熊田淳）

観光

沢などの水を利用し、焼いた石を湯船に沈め温められたブータンの伝統的なお風呂「ドツォ」。冬の星空を眺めながら、のんびりと浸かる露天は気持ちがよく、全ての疲れが癒やされるよう。

ブナカとチュカのキャンプ場は、自然の中で地元の人々の温かさに触れながら過ごす時間が特別！キャンプ場周辺ではラフティングなどを提供しているのでぜひ体験してほしい。（小原陽子）

動植物

シェムガン県ブリは野鳥の宝庫。伝説の湖Buli Tshoが見られる。景観保護のためにホテルの建設は禁止されており、昭和の雰囲気味わいながら民泊ができる。また、しめじやキクラゲ等、野生のキノコを味わえる。（岩佐幹生）

地形

ブータンには10ヶ所ほどの非火山性温泉（ツァチュ）がある。その中でもGasaとGelephuの温泉は有名。（北川伸二）



1	2	3
		4
5	6	7
		8
9	10	11
12	13	14

Listen to nature

1/ 出張で東部へ（鍋田肇） 2/ジミランツォ（小島海治） 3/出張で山登り ジョモラリルート（村井瞳） 4/ジミランツォ登山（浅田瑠理） 5/ハ県の中心地にそびえたつシンボルのおにぎり山（大内巴瑠子） 6/ LayaのRoyal Highland Festival 隊員だからこそ行ける4000m近い高地で行われるお祭り（田辺和） 7/ パロのタクツァン（小島海治） 8/ ジミランツォ 3000m級の山のでっぺんにある湖（小島海治） 9/ シェムガン県ブリ 伝説の湖Buli Tsho（岩佐幹生） 10/ ブータン伝統風呂ドツォ（鈴木育則） 11/ Phobjika : Black neck craneを実際に見ることができる（福井勇貴） 12/自然たっぷりキャンプ場巡り（小原陽子） 13/ジミランツォでのヤクの群れ（浅田瑠理） 14/ Pangrizampaの厄除け宗教儀式（花里さくら）





e and culture

1	2	3
4		5
6	7	8
9	10	
11	12	13
14		

1/ プムタン (渡邊弘海) 2/Gasaの温泉 (北川伸二) 3/ローカルバスによるコマビレッジの旅 (熊田淳) 4/Gelephuの温泉 (北川伸二) 5/プータン人に誘われて行った散歩は、軽めの登山 (岡崎悠作) 6/プムタンツェチュ (渡邊弘海) 7/ 南部特産のお酒トンバ (小原陽子) 8/ プータンそば「プタ」。これも辛いのはプータン流 (渡邊弘海) 9/ハのお正月行事ロンパ 各家庭で作られるさまざまなヘンテ (高江洲佳絵) 10/プムタンTharpaling寺院。夜空は澄み渡り見分けられないほどの星の数々 (江面和彦) 11/Mebartshoプータンの小高千穂 (渡邊弘海) 12/ プナカではラフティングなどのアクティビティも体験できる (小原陽子) 13/ プッダポイント (大津葵) 14/ ティンプーツェチュ (渡邊弘海)





活動の悩み

配属先へ愛が持てない...

自分ってただのマンパワー？

海外赴任で

家庭はぶっ壊れる...

座談会

なぜに「帰国」を悩むのか...

キャリアプランって立てるべき？

自分に合っている仕事ってなに？

自分の専門性と要請のズレが大きすぎるのー！

進学 or 現場 選べない...

帰国後キャリア

活動の悩みとグチのシェアおよびその反転とアクションプラン(AP)作りの座談会

Druk55号編集委員会では標記の座談会を企画し2024年1月19日に開催しました。座談会の趣旨は、活動に関する悩みやグチを遠慮なく話す機会を設けること、そして座談会で出た視点を活用して前向きなアクションプラン(AP)を書いてみることです。Druk記事にする目的は、活動中隊員のほか、訓練所の候補生、今後の隊員の参考にして頂くことです。企画は鍋田肇(農林統計、農業畜産省)と浅田瑠理(野菜栽培、FMCL)が行い、座談会に参加して下さったのは、大内巴瑠子さん(体育、カツオ小中学校)、田辺和さん(理学療法士、JDW-MC病院)、花里さくらさん(マーケティング、FMCL)、岡崎悠作さん(道路、MoIT)の4人です。また、熊田淳さん(きのこ栽培、NMC)と山中睦子さん(手工芸、ダクツオ校)にアドバイザーとして参加して頂き、悩みやグチを話してくれた隊員が、自分の抱える問題を反転させてポジティブなAPを考えるに当たっての助けとなる、経験や視点の提供、アドバイスをして頂きました。



Druk55号編集委員の鍋田から趣旨と進め方を説明した後、参加者から自由に話をして頂きました。

花里さん:配属先の活動に関し、これをやると良くなるのではというアイデアはあるが、それを押し進めたいというだけの愛(配属先への愛)を持ってなくなっている、という悩みがある(笑)。(他の参加者から「わかる!」との声が多数。)配属先のために、どうしてもこれをやらなきゃ、という駆り立てるものがなくなっている現状がある。

大内さん:最初からなの?でも確かに、やる気のギャップはあるよね。

田辺さん:同僚への愛もない?

花里さん:(既に色々と試したからかも知れないが)同僚への期待を余りしないようにしている面が今の自分にある。熊田さんのキノコセンターはどうですか?

熊田さん:愛というかモチベーションというか分からないけど、自分がやりたいことをやるしかないと思うよ。スタートは自分だと思ふ。

大内さん:隊員側のやる気と同僚のやる気のギャップがあり、愛が燃えていかないよね(笑)。やる気のギャップがない配属先なんてないのでは?



熊田さん:愛と言うか、モチベーションと言うかだけど、自分が好きなことをやるしかない。それをやって行くと愛は盛り上がるよ(笑)。自分がスタートだと思ふ。

大内さん:それはいい話ですね。熊田さん、愛に溢れていますよね(笑)。私の悩みって何かな…。実は任期が残り1ヶ月くらいしかなく、諦めが固まってきた(笑)。最初の頃、感じていたのは、私は何故ここに呼ばれたの?みたいなのがあった。もっと体育をやる気の先生がいる学校も、体育を盛んにやっている学校もあるだろうに、何故この学校なんだろう、と思った。自分の配属先が自分を求めている、と思えなかった。マンパワーとしては求めているかも知れないけど、JOCVを求めているように感じない。自分がやりたいと考えていたことと配属先側の気持ちのギャップにモヤモヤが募った。

田辺さん:自分がやらなくても世界が回るということ?

大内さん:外部から何かが入らないと変わらないから、入って良かったし、子どもにいい影響を与えられてはいるけど、自分がいる二年間だけの話になる。配属先が変わっているというのがないと感じ、どうしたらいいんだろう、と思う。自分がやりたいと考えていたこと、配属先がそれを求めているという気持ちのギャップを感じていた。どこも同じではないかな?(満足感があるか?との問いに答えて)それはない(一同、笑い)。同僚に対し、子どもも好きだし先生たちも好きだけど、満足感はない、と話したことがある。

田辺さん:子どもたちは大内先生のことを一生覚えている、というのはあって、羨ましいですけど。

大内さん:仕事はあるし、求めてくれている人もいて、有難いことだと思うけど、一時的な思い出で終わっちゃうんだろうなというのが、割り切れるまではあった。日本で普通に仕事していた方が自分の学びがあったし、成長したかも知れない。今日は、割り切り、をテーマにしてみたい。割り切りは妥協だと思うけど、その割り切りと拘る部分のバランスについて聞いてみたい。割り切りは必要だし、自分に許容する力が出来て来たけど、自分が日本で持っていた拘りの部分(これは譲れないという部分)がだいぶなくなってしまった(笑)。それを成長というのか？そのバランスをみんなどうしているのと思う(笑)。

日本にいる頃は、教育に対する拘り、子どもたちに対する拘り、教職員に対する拘りに確たるものがあつたが、こっちは、文化の違い、言葉の壁があり、譲るところだらけだった(笑)。

田辺さん:ブータンの先生って、子どもの前でもサバるの？



大内さん:私は生徒の見本でいたいというポリシーで、そうじゃないと付いてこないと思うから、自分が見本になって一番に動くべきと思うけど、ブータンにはそれがない。先生はやらないけど、生徒にやらせる、というやり方で信頼感を得ているのか？と思う。その部分は、自分のやり方を変えていないけど、先生たちの結束を高めて何かやる、という文化がないので、そこは仕方ないのかなあ、と思ってしまう。

田辺さん:私の場合、活動と自分の経験が全く合っていないところから始まる。自分の要請は理学療法士だけど、妊婦体操を今やっています。それが配属先での理学療法士の仕事になっているので仕方ないけど、自分に教えられることが限られ、妊婦体操は同僚の方が経験はある。まあそこをどうこう言うべきじゃないのかな、と思い始めた。

自分なりに良いと考える新しい取り組みを始めたとき、同僚は私への配慮からやってくれていたこともあるが、私に出張が入り戻るとやらなくなっていた(笑)。

私がいないとやらないことは、私がいなくなったらやらないな、と思う。新しいことを始めるハードルが上がってしまった感じ。あと、やる気がない感じがする。自分の方も、揺るがなかったはずの時間を守るとか(一同、大笑い)。同僚が朝9時に誰も職場にいない状況だけど、私の最近の目標も、朝9時に職場に来る、というふうに下がってしまった(笑)。私が9時に来るのを見ても、同僚は来るようにならない。協力隊はそういうところを変えて行かないといけないのだろうけど、私には難しいなあ。あとマンパワーになっている。

大内さん:配属先や患者さんや妊産婦さんが田辺さんを求めてくれている感はあるの？

田辺さん:妊婦さんたちはもともと運動なんかやりたくない。妊婦体操をやるのは義務か？と妊婦さんから聞かれるので、義務じゃないけど絶対にいいことがあるよ、と言うが、もうその説明も余りしたくない(笑)。妊婦体操をした方が合併症を減らせるし、保健のうえでもやった方が絶対にいいけど、保健の教育を受けたことがない妊婦さんたちは、だんだん来なくなっていく。

配属先の院長は、私の提案を聞いてくれてすごくいいが、同僚は業務が増えるので、私が提案する新しい取り組みに、協力はしてくれるが、出来ればやりたくない、という感じ。私が職場にいることは、マンパワーとして助かるけど、それ以上でも以下でもないのだと思う。協力隊のコンセプトを分かっている人の方がブータンでは少なく、若者のオーストラリア流出に対応する為に協力隊を増やそう、と発言してしまう人もいる(笑)。上の人が分っていないので、同僚レベルが知らないのは無理もない。



岡崎さん:田辺さんのお話、自分の専門と配属先の業務が違っているという点から始まりましたね。最初はなんてたんですか？

田辺さん:日本にいる間から要請内容は分っていたので、妊婦さんへの対応経験のある理学療法士の話の聞いたりしていた。でも、ブータンの多くの妊婦さんは英語を理解してくれないし、

かなり違うやり方が行われている。神話のような、骨盤を動かしておけばいい、みたいな体操もある。解剖学の知識や筋肉の機能の話など入らない。ヨガや東洋医学のようでもあり、科学的な根拠がない体操。自分が担当する場合は科学的にやっているが、同僚への指導となるとなかなか難しいのが実情。

岡崎さん:自分の悩みは、職場から求められていない感じがするお二人とは違い(「オー」という反応)、職場からは求められている感じです。自分の配属先は、日本の国交省のようなところで、技術協力プロジェクトが沢山実施されており、日本人の経験豊かなエンジニアが沢山来ます。そこに配属されたボランティア(自分)は、コンサルタントと同等レベルの知識があるもの、と見られている。

ただ、日本では橋の関係を担当していたけどブータンでは地盤の専門家のポストにいて、ずれています。協力隊の応募の際に自分の専門と要請のズレに気付いていたが、JICAの人から、多少のズレがあっても問題ないだろう、と言われた。実際に来てみると、思っていた以上に専門性を求められている感じがする。配属の初日に、インドのコンサルタントが作成したレポートの修正点を挙げることを求められた。そしてそのやり方自体も日本の仕事のやり方と違っている。日本の場合は、色々な計測があり、数字を使ってコンサルタントが見解を述べているが、ブータンでは機械を使った調査をしていないので、現場で見られた石の種類を沢山挙げて現場の状況を説明するなど。

大内さん:それで自分としては困っちゃったって感じ？



岡崎さん:しょっ端から、俺これやるのか？って感じになったけど、それには既にコメントを返し、日本のやり方を説明したりした。例えば見られた石の種類から地層の特性を考えるべきなどのコメントをした。うちの職場はやる気はまあまああって、残業代が出なくても残業をする。でも、やる気のある時はあるが、私がコメントを返した時の反応は余り良くなかった(笑)。

読んでくれたのかなあと思う。コメント返すのに2週間かけて読み込みコメントした時、同僚は低いテンションだった(笑)。

花里さん:配属先が作ったレポート？

岡崎さん:配属先は発注者なので、インドやブータンのコンサルタント会社ที่ 作ったレポートにコメントして業者に返し、修正を求める。

大内さん:赤ペン先生ですね？

岡崎さん:英語もキツイし、日本の調査レポートとブータンの調査レポートの違いもあるし、専門分野もずれている、というのがある。

大内さん:赤ペン先生は、岡崎さんや日本のコンサルタントがするのですか？

岡崎さん:いや、赤ペン先生はブータン人の同僚もするけど、今は地盤の専門家がいなくて、ということで私が見ている。自分の専門は地盤じゃないことは配属先に話してあるが、work-permit(労働許可証)に地盤が専門と書かれているし、期待されるのは無理もない。



田辺さん:その点、自分の専門性と合った仕事をさせてもらうとかの可能性はないの？

岡崎さん:それは、橋の部署があり、その分野の仕事をやっていいよ、と言われているんだけど、自分が任されている仕事を放棄することは出来ない。

大内さん:ブータン国内にその分野の専門家がいなくて、少なくとも我々より岡崎さんが詳しいでしょ、となっているのですか？オーストラリアへ行ってしまった、というのもあるのかな？

岡崎さん:あるかも知れない。1/25にまた同僚がオーストラリアに行ってしまう。うちの部署から3人行くらい(一同、ため息)。「そうなるとう一人当たりの仕事も増えるね」との意見も。

田辺さん:私の場合も、配属先での妊婦体操に加えたプラスアルファで、理学療法活動を隣接する病院でもしてもいい、とは言われている。午後だけ理学療法課に行くことは出来るが、午後はその業務が余りない。

今の配属先も理学療法課も、午前中が忙しいので、プラスアルファの活動は出来ないのが実情。

岡崎さん:私もプラスアルファの活動として橋の関係をすることは出来るが、タイミングを図る必要がある。今頼まれている地盤の赤ペン先生の仕事は、慣れれば簡単に片付けることも出来るが、今は勉強中。

日本と違っていて不思議なのは、業者との契約の期限ギリギリに出てくるレポートの質がとても悪く、修正依頼のタイミングがおかしい。そのやり方を変える必要があるかも知れない。同僚たちは、赤ペン先生をしっかりとやっていないのではないかとと思う。

公務員の仕事は、設計業者に仕事を発注し、できた設計図書を施工業者に発注して建設する流れなので、公務員が中身を理解できていない場合でも、ものは出来てしまうことがあり得る。見た目は工事が完成し、問題は数年後に起きる、ということが起こる。

配属先は、業者に業務を発注しているので、上がってきたレポートを吟味するが、地盤の部署以外にも多くの部署が関係している。各部署のコメントを取りまとめて業者と協議する部署があるはずだが、まだ十分把握できていない。赤ペンした部分をしっかりとフォローして行く必要があるのに、今は赤ペンの結果を業者に渡して終わりの気がする。

会から配属先の校長に対し、協力隊員の着任とその目的、学校としての体制を一言説明しておけば、JOCVの活動成果が出やすくなるのではないかと。隊員は皆、分野のプロなのに、力を発揮できない場合が多すぎて勿体ないと思う。またブータン隊員特有の焦りがあるのかも知れない。その国で2年間活動した、と言えるような厳しい環境じゃないから。

岡崎さん:自分の配属先はかなりレベルが高く、海外の大学院修了者ばかりで、井戸を掘りました、みたいなことをするレベルにない。ブータンは一般の協力隊のイメージとちょっと違うかも知れない。



ここまでで1時間が過ぎたので、ここで参加者4人にカードを記入して頂いた。カードに書く内容は、自分が活動で感じている悩みや問題である。4人で話さず既に書き始めていたので、半分はできていて、残る半分をこの時間に書いてもらった。配属先や同僚に関する率直な評価も含まれ、具体的に全てをここに掲載するのは難しいので、一部を抜粋する。

(この次の作業は、各参加者が一枚だけ自分のカードを選び、「5何故」で深掘りし、最終的に前向きなAPにつなげる、という流れ。)

花里さん:「共通目標(ワクワク)がないから点と線が繋がらない」「配属先活動への愛が生まれにくい」「ボランティアが必要な段階じゃない(経営難)」「アポイント・依頼事、すぐ忘れるの何で?」「JOCVの先のJICAを見ている感」「職場のトイレが逆流しがち」「TA/DA(旅費・日当)ぐらい払うべきじゃない?」「二年間を費やす価値を悩む時」「異文化交流だけじゃ次の職に繋がらない」など。

大内さん:「配属先がJICAやJOCVを理解していない」「物品の支援を求めている」「配属先に求められていない感」「管理職の力が強く、タテ社会過ぎる」「一部の教員のやる気がない」「予算・計画がコロコロ変わる。それについてコミュニケーションが取れていない」「学ぶ意欲が低い、研修・勉強会に日当払うの?」「学校が汚ない」「思っていた協力隊像とのギャップ」「今後の進路に生かせるか不安」など。



司会者(鍋田):座談会の前半部分を締めくくる前に、座談会で自分が一番言いたかったことを言えてないと思う場合、ここで言っておきましょう。

花里さん:協力隊プログラムは異文化体験ができたことに価値を置きすぎている感じがする。帰国後に国際協力に進むならいいが、再就職する場合、第三者に説明できる強みを得られているか、考えないといけない。

田辺さん:国際協力に進むのではなく、理学療法士に戻ることを考えた場合、ここでの二年の経験は意味がないとなる。日本で新人指導していた、と言う方が専門的にはプラスになる。

大内さん:帰国後、ブータンでの2年間の成長をどう説明できるのか不安はある。ブータンの学校では校長の力が凄く強いので、例えば、教育委員

田辺さん:「要請と経験のギャップ」「時間守らない」「ブータン側の支援慣れ」「衛生面、病院としてどうなの?」「体裁だけは時間掛けて整えたのに、利用しない」「新規で始めた活動が続かない」「エビデンスに基づいた医療より伝統治療がずっと行われている」「病院職員が家族の通院対応で職場を離れすぎ」「同僚たちが協力隊の立ち位置を理解していない」「TA/DA(旅費・日当)目当ての出張」など。

岡崎さん:「同僚がオーストラリアに行ってしまう」「好きな活動をするにはプラスアルファになるのでタイミングが難しい」「専門がずれていて期待されるほどの仕事ができない」「予定がコロコロ変わりすぎ」「熱量のバラツキがあって、やるのかやらないのか分らない」「英語がわからない」「ゾンカがわからなくて友達が何言っているかわからない」など。

4人の参加者が、考えつく悩みや問題のカードを各10枚程度書いたあと、アドバイザーとして参加して頂いている熊田さんと山中さんに、ここまでの座談会を踏まえてコメントして頂いた。(ここまでは、悩みやグチを敢えて言いましょ、というパートだったので、皆さん、敢えて言いました、という点は留意しておきたい。)



山中さん:同感です(一同拍手。笑)。4人の皆さんが指摘している問題には同感します。でも同感ばかりしていると人生もたいたいから、そこから価値を見いだすのがいいと思う。

熊田さん:色々な悩みが出たけど、私の中で印象に残ったのは3点。まずは、愛。私の言葉で言うと、モチベーション。自分のモチベーションと同僚のモチベーションの問題。二つ目が専門性と要請事項の問題。三つ目がJICA経験と将来のキャリアの問題。

一つ目は、というか二つ目も三つ目も共通しますけど、専門性と要請事項について、皆さんの参考になるかどうか分らないけど、私は自分の専門性を求められた経験が殆どないです。大学院で長年やっていたことが就職先で一切求められなかった。何をやってたかも聞かれない。

うちの県はキノコ栽培先進県だからキノコをやれと。今まで何をしていたかは聞かれたこともない。それどころか、その年から海外の技術研修員を受入れることになっていたので、私が英語を話せる、というただそれだけで、全く専門性が活かされないキノコの部屋で研修員の受入担当になった。でも、自分は負けず嫌いなので、新しい分野でまたトップを取ればいいと考え、ゼロから始めた。2011年の震災後は、従来の研究が全てストップし放射能の研究にシフトし、森林の放射能被害について専門家は誰もいないという中で、チェルノブイリの文献を自分で勉強した。

これまでに過去の財産で喰ったという経験がありません。毎日毎日がチャレンジでした。勿論、専門性は大事で、一つの分野を極めたらその経験を活かし次の分野で時間を短縮して専門性を身に付けられるけど、過去の専門性に拘っているとそこから全然伸びない。確かに専門は自分のプライドだし、守らないといけないけど。そう考えると、どこに行ったとしても、自分の専門性と要請事項は、ぴたっと一致することは、1%ぐらいしかないと思う。私の経験では一回もない。

専門は大事だしプライドも大事だけど、過去の専門性に拘っていると何年前の自分に留まってしまう。そうなる職場でも孤立し、周り合わなくなってくる。なので、専門性は置いておいて、私もここでのことを勉強させて欲しいとする姿勢が、専門性と要請事項を上手くすりあわせる要領かなと思う。

JICA経験と将来のキャリアですが、キャリアについても、何かの証明書や資格になると一番で、帰国後に入社するためには紙に書かれたものがあるといいけど、でも何をやろうが過去の経験が直接活かされることは何もなく、自分の中でどんなキャリアをここで身に付けるかは、経験でしかない。新たな職場に行った時も、そこでゼロから始めるつもりにならないと、ここまで積み重ねたのにまたゼロから?ではなくて、例えば同じ職場でも明日からゼロからというのものもあるし、確かに積み上げて大事だけど、それに拘りすぎると、積み上がらない。なので、JICA経験とキャリアの問題でも、紙の問題じゃなくて、ここでの経験を活かし、またゼロからチャレンジできるそう言う気分とモチベーションを持つことが大事じゃないかなと思います。

最後に、職場への愛ですが、私の場合、皆さんに当てはまるかわからないけど、みんなのモチベーションや自分のモチベーションを上げようとか全然思わなくて、やりたいことをやっているだけです。やりたいことというのは、自分勝手なことだと困るけど、自分がいまやりたいことと(配属先の)高次の目標は交わるものだと信じて好きなことをやるのがいい。

ブータンだけじゃなくて自分の職場でも自分の好きなことしかやりませんでした。勿論、好きなことをやるためには、本来やらなきゃいけないことは全部こなさなきゃいけない。ノルマはこなしたから好きなことをさせて頂くよ、とやってきました。好きなことをやっている、気になる人が加わってきて3人4人となっていく。まず自分が楽しくなく我慢してやっていることには、多分人はついて来ない。これが私の意見です。

皆さんの今日の作業にこれが役立つかは別ですけど(笑)。

山中さん:私がやっているぬいぐるみも、初めてなんです。ブータンで初めてやったんです。一人にフォーカスするとか、一点にフォーカスするとか、何かあると思います(組織全体を変える、とまでじゃなく)。

私が今人形を作り替えているのは、知的障害にある一人の男性が、私がいなくなっても出来るようにと思ってやっています。それが商品になるのだけど、私がブータンからいなくなると、その男性は私のCP(カウンターパート)と仕事をするようになるのだけど、そうするといつもケンカになることが見えています(笑)。そうならないよう、彼が一人でできるように、と考えてお人形を作り替えています。隊員はやはり時間がないから、何でもいから価値を見いだして欲しいです。

4人の参加者がそれぞれ10枚前後の問題カードを記入した後、二次元のグラフを使い整理しました(写真)。



使った二次元は、縦方向が「技術面(=技術の問題)vsメンタル面(=メンタリティの問題)」、横方向が「隊員(=隊員の問題)vs組織(=組織の問題)」です。

紙面の都合上、細かく説明しませんが、4人の参加者が書いた問題カードは、縦方向で見ると、技術的な問題(上側)よりメンタリティ/考え方の問題(下側)が多い傾向があり、横方向では、組織全体に関わること(右半分)が多かったようです。(つまり、隊員が自分の技術を向上させることで

解決する、という問題より、配属先の組織風土や価値観に関わる問題が大きな問題、と感じているようです。)

今回の座談会は、時間の制約もあり、各参加者が一番大事だと選んだ問題カードを皆で深く掘り下げることは出来ませんでした。宿題として、自分が考える重要課題に対応するようなアクションプラン(AP)を4人の参加者が持ち帰りました。以下はその宿題の結果(選んだ問題の5何故とAP)です。

【花里さん】

・選んだ問題:「自分の中で、配属先と活動への愛が生まれにくい」

- ・1なぜ:「考えられる選択肢は提案した」
- ・2なぜ:「提案は相手に響かなかった」
- ・3なぜ:「相手がワクワクしなかった(求めているものじゃなかった)」
- ・4なぜ:「成果を求めてない(半官半民)。商品への愛がない」
- ・5なぜ:「営利組織じゃない。商品の事を知らないから」
- ・AP:「なぜ自分がマーケティングが好きだったのかも一回考える。自分がわくわくする事に重点を置いてみる。」(マーケって超楽しいんだね～！って同僚と話せるようになりたい。笑)

【田辺さん】

・選んだ問題:「専門性と要請のギャップ」

- ・1なぜ:「そもそも妊婦体操は日本では理学療法士領域でないがブータンでは理学療法士」
- ・2なぜ:「ブータンでは運動に関係することは理学療法士」
- ・3なぜ:「理学療法士が専門職として求められているから！」
- ・AP:「もっと同僚に日本の理学療法の考え方や文献の調べ方を伝える！！」

【大内さん】

・選んだ問題:「配属先がJOCVを正しく理解していない。マンパワーとして使われている」

- ・1なぜ:「同僚がJOCVの趣旨を理解していない」
- ・2なぜ:「管理職、教育委員会がJOCVの趣旨を同僚と共有できていない。ブータン人を育てる気持ちがない」
- ・3なぜ:「支援され慣れている。教員不足」
- ・AP:「教員不足という理由でも、「協力」することには変わらないと前向きに考える。自分が楽しく体育の授業をやっている姿を同僚に見てもらう機会を作る。JICA側、配属先(校長・教育委員会)、隊員3者で、派遣時にJOCVの意義について合意と確認が取れると、双方にとってより有意義な期間になりうる。」

【岡崎さん】

- ・選んだ問題：「専門がズれてて、期待されるほど仕事ができない」
- ・なぜ1：「専門がズれててもJICAはある程度許容する」
- ・なぜ2：「現場の専門性があがってることにJICAが気づいてない」
- ・なぜ3：「JICAの現地スタッフに専門の人がいない」
- ・AP：「ズれてても出来ること(ズれてるからできる)もあるはずなので、その未来を信じて、今はまずは勉強」(JICAにはボランティアの専門があってないことを説明しておいてほしい。)

皆さま、長時間の座談会参加、大変ご苦勞様でした。参加者が選んだ重要問題のカードは、隊員が自分の技術を向上させることで対応できるものではありませんから、配属先や同僚が変わってくるには？という問いであったと言えます。参加者が書いたAPをみると、熊田さんと山中さんから頂いた経験シェアの影響が見られていて、自分が楽しむという視点が入り入れられているようです。今回は、長時間ではありましたが、隊員活動に関わる根本的な問題を問うた、ということ考えると、とても限られた時間でした。それでも、この時間が参加者皆さんの今後の活動に、引き続きヒントを与えることを心から希望します！



(本記事は、座談会の概要をまとめたものであり、各発言を詳細に再現するものではありません。文責：鍋田肇)



帰国後キャリアに悩む若手隊員が、 経験豊かな企画調査員&シニア隊員と今後について語る座談会

前記事の座談会と同日、午後の部として表記のキャリア座談会を開催しました。





お悩みの相談者として熊澤美帆さん(障害児・者支援、チャンガンカ小中学校)、花里さくらさん(マーケティング、JICA)、福井勇貴さん(柔道、ブータン柔道協会)と浅田瑠理(筆者、野菜栽培、JICA)の4人に、また、アドバイザーとして、眞鍋朋子さん(企画調査員・保健・ガバナンス・教育分野)、須藤伸さん(企画調査員・円借款形成(農業・電力・政策)、鍋田肇さん(農林統計、農業・畜産省)の計7人に参加して頂きました。

本座談会は、退職参加で一度キャリアが途絶えてしまった隊員が、多彩な経験を持つアドバイザーに自身の今までのキャリアやその裏の失敗、困ったことなどを聞き、新たな選択肢の発見や進路を考えるきっかけになることを目的としています。




座談会前に、事前に相談者の簡単な経歴と今後のビジョン、悩み事をアドバイザーに共有しており、当日は相談者から簡単な説明のあとアドバイザー自身の経歴を発表頂き、相談者、アドバイザーで自由に意見交換をして頂きました。

※本稿は相談者・アドバイザー各自の発表後の会話を主に編集しています。各参加者の発表の要約は、下記の表をご参照ください。

《相談者》

氏名(職種)		花里さん(マーケティング)		福井さん(柔道)		浅田(筆者、野菜栽培)	
経歴	<ul style="list-style-type: none"> 美術大学日本画専攻 小・中・高等学校・特別支援学校で美術科教員として勤務【15年】 JICA青年海外協力隊としてシリア・ヨルダン派遣(職種:美術) 2023年2月~ブータン派遣 	<ul style="list-style-type: none"> 農学部昆虫機能開発専攻 ストックメーカで営業として勤務【3年間】 日用品専門商社でマーチャンダイザーとして勤務【3年間】 2022年11月~ブータン派遣 	<ul style="list-style-type: none"> 法学部ビジネス法専攻 大学でスポーツ兼任所員(柔道部コーチ) 高等学校で外部指導者(柔道部コーチ) 少年柔道クラブ(ジュニアコーチ) 2022年4月~ブータン派遣(派遣延長見込み) 	<ul style="list-style-type: none"> 農学部農業経済・経営学専攻 農業機械販売会社で人事総務・経理として勤務【8年間】 2022年5月~ブータン派遣 	<ul style="list-style-type: none"> 法学部ビジネス法専攻 大学でスポーツ兼任所員(柔道部コーチ) 高等学校で外部指導者(柔道部コーチ) 少年柔道クラブ(ジュニアコーチ) 2022年4月~ブータン派遣(派遣延長見込み) 	<ul style="list-style-type: none"> 農学部農業経済・経営学専攻 農業機械販売会社で人事総務・経理として勤務【8年間】 2022年5月~ブータン派遣 	<ul style="list-style-type: none"> 農学部農業経済・経営学専攻 農業機械販売会社で人事総務・経理として勤務【8年間】 2022年5月~ブータン派遣
一番相談したいこと	<ul style="list-style-type: none"> どの進路が、自分のやりたいこととキャリアアップを合致させられるのか。 人生設計を考えたときに、今の思いを先行させて良いのが分からなくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 何の職業が私に向いてると思いますか？(業界問わず。先輩方に聞いてみたいです) もし国際協力で生きていくなら、決断は何歳までにすべきか。向き不向きは？ 	<ul style="list-style-type: none"> イメージがつかないので、座談会で色々相談したいです！ 	<ul style="list-style-type: none"> 国際協力以外でどんな国際×農業の道があるか。 国際関係の仕事と家庭との両立をどのようにしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際協力以外でどんな国際×農業の道があるか。 国際関係の仕事と家庭との両立をどのようにしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際協力以外でどんな国際×農業の道があるか。 国際関係の仕事と家庭との両立をどのようにしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際協力以外でどんな国際×農業の道があるか。 国際関係の仕事と家庭との両立をどのようにしているか。

《アドバイザー》

氏名(職種)		眞鍋さん(企画調査員)		鍋田さん(隊員・農林統計)		
経歴	<ul style="list-style-type: none"> 須藤さん(企画調査員) ※円借款形成(農業・電力・政策) 青森市役所都市整備部【3年間】 外務省経済局/国際協力局【4年間】 JICA フィジィ事務所【3年間】 JICA ブータン事務所(2021-現在) 【教育・研究】 早稲田大学社会科学部卒業(2010)(社会科学士) ロンドン大学東洋アフリカ研究学院修了(2021)(開発学修士) 	<ul style="list-style-type: none"> 眞鍋さん(企画調査員) ※保健、ガバナンス、教育 文学部東洋史学科(中近東)バックバッカー(協力隊との出会い) アメリカ留学 地元大学院進学 イエメン留学 フランス大学院(公衆衛生) JICA専門家(セネガル) 妊娠・結婚 JICA専門家(モロッコ・息子帯同5歳) 新潟大学大学院歯学総合研究科国際保健学・助手 コロナ禍、息子のバンクーバー留学に帯同 JICAブータン企画調査員 	<ul style="list-style-type: none"> 鍋田さん(隊員・農林統計) 大学卒業後、JA全農へ就職→半年で退職(酒癖が悪かった) ちり紙交換業、乾物行商、先斗町歌舞練場、軽トラック運転手など【1年間】 JICA青年海外協力隊として、Bangladeshに派遣(職種:家畜飼育) 帰国後、大学院進学&結婚 ㈱日本農業に就職、農業&医薬の研究開発【4年間】 IFAD(国連・国際農業開発基金)でAPO【2年間】 JICA入構→本部勤務、Bangladesh駐在、大学への出向等【25年間】 2022/11~ブータン派遣(協力隊員) 	<ul style="list-style-type: none"> 大学卒業後、JA全農へ就職→半年で退職(酒癖が悪かった) ちり紙交換業、乾物行商、先斗町歌舞練場、軽トラック運転手など【1年間】 JICA青年海外協力隊として、Bangladeshに派遣(職種:家畜飼育) 帰国後、大学院進学&結婚 ㈱日本農業に就職、農業&医薬の研究開発【4年間】 IFAD(国連・国際農業開発基金)でAPO【2年間】 JICA入構→本部勤務、Bangladesh駐在、大学への出向等【25年間】 2022/11~ブータン派遣(協力隊員) 	<ul style="list-style-type: none"> 大学卒業後、JA全農へ就職→半年で退職(酒癖が悪かった) ちり紙交換業、乾物行商、先斗町歌舞練場、軽トラック運転手など【1年間】 JICA青年海外協力隊として、Bangladeshに派遣(職種:家畜飼育) 帰国後、大学院進学&結婚 ㈱日本農業に就職、農業&医薬の研究開発【4年間】 IFAD(国連・国際農業開発基金)でAPO【2年間】 JICA入構→本部勤務、Bangladesh駐在、大学への出向等【25年間】 2022/11~ブータン派遣(協力隊員) 	<ul style="list-style-type: none"> 大学卒業後、JA全農へ就職→半年で退職(酒癖が悪かった) ちり紙交換業、乾物行商、先斗町歌舞練場、軽トラック運転手など【1年間】 JICA青年海外協力隊として、Bangladeshに派遣(職種:家畜飼育) 帰国後、大学院進学&結婚 ㈱日本農業に就職、農業&医薬の研究開発【4年間】 IFAD(国連・国際農業開発基金)でAPO【2年間】 JICA入構→本部勤務、Bangladesh駐在、大学への出向等【25年間】 2022/11~ブータン派遣(協力隊員)
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 学生時代はカンボジアの教育支援に係るNGO活動に熱中。 就活を始めたが、目ぼしい会社は既にエントリー期間終了。地元で地方公務員の道へ。 安定した公務員の仕事を辞め、国際関係のキャリアをスタート。 学生時代の経験から、アジア&大洋州が自身の根幹となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生時代の専攻は中東。以来、中東が自身の根幹となっている。 興味を赴くままに大学院へ進学。初就職時は30代になっていた。 中東史と公衆衛生のダブルマスターをフランスで取得。 お子様を帯同して海外駐在をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 新卒で就職したJA全農を半年で退職(酔ったまま寮から北海道へ行ったから) 国際関係だけではなく、多種多様な職業を経験 キャリアの途中で結婚やお子様の誕生があり、技術系志望を諦めジェネラリストへ方針転換 人を笑わせるのが子供の頃から好き 	<ul style="list-style-type: none"> 新卒で就職したJA全農を半年で退職(酔ったまま寮から北海道へ行ったから) 国際関係だけではなく、多種多様な職業を経験 キャリアの途中で結婚やお子様の誕生があり、技術系志望を諦めジェネラリストへ方針転換 人を笑わせるのが子供の頃から好き 	<ul style="list-style-type: none"> 新卒で就職したJA全農を半年で退職(酔ったまま寮から北海道へ行ったから) 国際関係だけではなく、多種多様な職業を経験 キャリアの途中で結婚やお子様の誕生があり、技術系志望を諦めジェネラリストへ方針転換 人を笑わせるのが子供の頃から好き 	<ul style="list-style-type: none"> 新卒で就職したJA全農を半年で退職(酔ったまま寮から北海道へ行ったから) 国際関係だけではなく、多種多様な職業を経験 キャリアの途中で結婚やお子様の誕生があり、技術系志望を諦めジェネラリストへ方針転換 人を笑わせるのが子供の頃から好き

「大学院進学」の適切なタイミングについてどう思うか?

浅田 須藤さんは(市役所と外務省勤務を経て)ICAFイージーの後に大学院に行かれたんですね?その時点で国際協力の分野のキャリアとしては既に充分なように思ったのですが、そこからどうして大学院に行きたいと思ったのでしょうか?

須藤さん 実は初めから大学院に行くかと思っていて、ずっとそのタイミングを見計らっていたんです。加えて、国際協力の現場に入ることはできたけど、開発理論を学んでいない自分以後ろめたさを感じ、専門家と言えらるうか?という疑問が常にあったのが一つの理由です。

もう一つは、国際協力の分野では周りに院卒が多い環境にいたことや、現地(フィジーなど)のCROでも継続して勉強をしたいという人が多かったことも進学を決めた要因です。こうした点が進学の後押しになりました。

眞鍋さん 専門家になるにしても、基本的にはマスターが必要になりますよね。

須藤さん 大学院進学は教育・研究だけでなく「投資」という考えも大きいです。何を何年学ばか、国内・海外か?といった点で、時間や資金の投資をその先どの程度回収できるか?という点も一つの考え方ではないかと。

私の場合は学位取得への道を短期集中型で考えたので、一年で学位を取得できるイギリスの大学に(日本で)在宅留学しました。

りたいことしか続かないと思ったんです。公衆衛生や環境など別な専門性を高めることもできたけれども、どれだけ関心があるかで開発学という趣味に走ったのが現実です。

熊澤さん 私も大学院進学が一つの選択肢にあつて、さらに「いつ学ばか」が悩み事の一つとしてあつて、今後の進路のためには大学院進学が必要不可欠なんです。私としては現場にいるほうが好きなんです。

今の時点で現場で働ける選択肢がある、でも、いずれかは大学院にいかなければならない、じゃあどうするかで悩んでいて、今自分がしたいことを優先すべきか、いずれ行かなければならない大学院を選択すべきか。

須藤さん その気持ちはすごく分かります。なぜ私が大学卒業後10年間も大学院に進学しなかったかというところ、時々次のキャリアに職業上のつながりが見えたから、わざわざそれを断つてまで進学をするか?というのは、選択肢を考えるうえで一つの考えるポイントとなると思います。

せっかく次の現場での仕事の機会があるなら、タイミング次第ではわざわざ大学院進学を選ばないのは、はとも思いました。

熊澤さん でも、大きなスパンでみたときに、進学は必要不可欠ですよ。鍋田さんのお話にあつたように、ご縁を繋いできた結果、やりたかつたこととは違う選択となつたとのことですが、その思いを断ち切つたのでしょうか?

鍋田さん なにも気にならなかつたです。楽天的なので。なにも成し遂げずに、そのときそのときの仕事をやって

きてたんですけど、死ぬとき後悔する感じはないですね。いい人生でした。(一同笑い)

須藤さん フルタイムではなくて、仕事を続けながらパートタイムで進学するということもできると思うんです。(アドバイザー全員が賛同)

眞鍋さん 須藤さんの場合は手段としての進学だと思つたのですが、私はやりたくてやつたらたまたま仕事に繋がつたつて感じてラッキーだった。熊澤さんのキャリア選択を見たとき、本当に進学が必要かなとも思いました。

熊澤さん 難民支援に携わりたので、大学院は不可欠なんです。

鍋田さん 大学院つて、そこで更に仕事の関係者との繋がりができたりする。学びにいくだけではなくて、難民支援の関係者との繋がりができるから、就職と進学は別物ではないと思えますよ。早めに行けばネットワークができるし、そこでのネットワークは普通はなかなかできないものだけど、そこ(大学院)ではできちゃう。

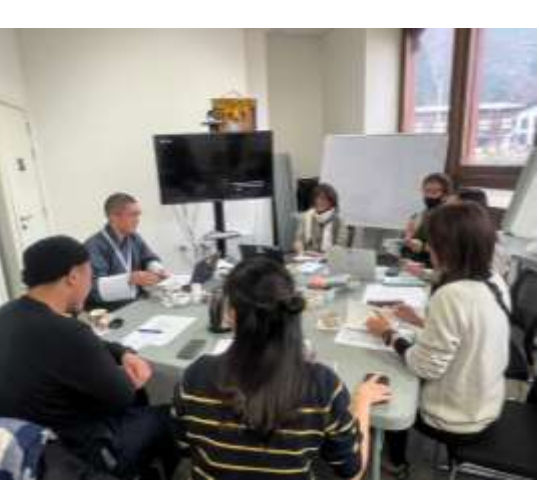
眞鍋さん 私も、ICVA専門家としてセネガルに赴任した時に保健省に挨拶に行つたら、フランスの大学院時代のクラスメートがそこに。かなりらしい立場にいて、その後大変助かりました。そつういふ繋がりがつて、国内の大学だとなかなかないことですよ。

鍋田さん ブータン人も良く大学院に進学しますよね。学びたい気持ちで抑えられるものではなくて、満たしてあげるまでは続くと思いますよ。

須藤さん 大学院の進学を考えるとあれば、今から動き出してもいいん

じやないでしょうか。大学院の進学つて結構準備に時間がかかるんですよ。ある程度、進学する方向で動いていて、最後の最後でまた別の道が見つかったのであれば、やめてもいい。別にその準備は無駄にはならなくて、また何年後かにアプライの機会が訪れる可能性もあるわけ。逆に準備していたら自分のマインドが進学に動くかも、しれない。動き出してみることによつて自分の考えや方向性が明確になつていくこともあるんじゃないかと思う。

熊澤さん 自分の活動を中途半端に終わらせたくない思いがあつて、そう思うと任期ではどうしても終わらない、少しでも成果を残して終えたいという思いが自分のなかにはすごくある。



ブータンで新しい出会いがあって、やりたいことが増えた。

須藤さんの経歴のなかでカンボジアの教育支援をしていたというのがありますが、ずっとカンボジアと繋がって来たわけではないと感じました。そこで気持ちを切り替えられた須藤さんの考えを聞きたいなど。

須藤さん 切り替えたわけではなくて常に私の中にはアジアと大洋州の開発に携わりたいという思いがあるんです。

熊澤さん 私もベースは美術教育で行きたいという思いがあるんだけど…

眞鍋さん 熊澤さんはその先も考えていますよね。私も基本、学生時代に関わった中東が根底にあるんです。学生時代に中東を専攻、留学に行っている。

JICAの専門家としてセネガル、モロッコに赴任して、イスラーム？中東？あれ、ニアフリカだったよ、想像してたのと全然違うーというところもあった。でも未だにあれこれやっていると、戻っていくところ、いつもう感じで、戻っていくところ、いつもうながつているところな気がします。熊澤さんもそういう引張るもの(眞鍋さん)の場合(中東)がはつきりしているし、ちよつと寄り道に感じたとしても、自信をもつて？思い切って？先に進めるんじゃないかと。

須藤さん やりたいことが沢山あるという悩みは贅沢な悩みで、やりたいことが何もありませんよ。だいたいアドバンストな形ではないかと。最後はどっちかに転がして、というかどの選択を選んででも正解にするという気概があるように見えます。

「キャリア転換期のマインドチェンジはどんな感じ？」

福井さん 鍋田さんに聞きたいのですが、どこかで折り合いをつけて自分がやりたいことを断ち切ってきたのではないですか？ということについてはなんですけど。

次の場所でも面白いことがきつくとおもうと、思ってたやっけてきたと仰っています。たよね。でも、始めるときって面白いことばかりじゃないと思うんです。例えば、チリ紙交換の会社(鍋田さんの経歴のひとつ)に入りますというとき。僕だったら「チリ紙交換か？」って思っちゃうと思うんです。そういうとき、どついう風にマインドチェンジしたんですか？

鍋田さん 分からない：子供のときから笑わせる役だったから、何をしてもまあまあ面白い。

福井さん なんでこんな質問したかっていうと、僕も根底にあるのは、自分が心踊るようなことをやりたい、柔道だけでなく人のサポートをすることに面白みを感じるタイプなので、今後、全く関係ない企業に入るにしても、どうマインドチェンジしていけばいいのかなと。

鍋田さん なんとなく飲み会みたいなのが好きて、人付き合いがまあまあ好きなんです。面白くないとすれば、今ブータンで農林統計の仕事というのはあまり面白くない(笑)。人に会っている限りは面白い。例えば熊澤さんが悩んでるとする。なんか話を聞きたくなっちゃう。その時その時で相手の分野を勉強して面白いことを言っちゃおうと。あんまりウケないときもありますけど。だから

その時その時が面白いです。

浅田 お二人(須藤さん、眞鍋さん)はやっていてつまらなかった仕事とかありますか？

(考える二人)

眞鍋さん うーん：勉強(フランス留学時代)がつまらなかった(一同笑い)、いや、つまらなかった。挑戦し過ぎた感じがしますね。語学学校と専門の掛け持ち。座学とインターンシップが半々のコースで、インターンシップで8割学んだ気がします。仕事は鍋田さんのように、やったことが楽しかったし、楽しくなさそうなことに手を出さなかったとも言えるかな。

須藤さん 私は辛かったこととかつまらなかったことは頭からデリートしているタイプで、つまらなかったことはそんなないです。どちらかというところ楽しいことだけを見ていくという。

「国際×農業の仕事って何があるのだろう？」

須藤さん 浅田さんのキャリアシートの中で「国際×農業」の仕事ってあるじゃないですか。今の時代、どの分野に行っても国際とデジタルはついてくるとおもうんです。

だから、意識的に国際を考えなくてどこかの会社に入ったのであれば絶対についてくる。むしろ国際性というキーワードは専門性に加えて、分野横断的なものとして考えていいんじゃないかとおもうんです。

浅田 ブータンにきた段階から「国際×農業」に進みたいと考えて、じゃあ



開発コンサルやICTV専門家かなど短絡的に思っていたけど、任期の終わりが近づいてきていて、本当にやりたいことじゃないんじゃないかと思ってきました。

須藤さん 漠然と考えるよりも、より具体的に問いかけてみてはどうでしょう。国際というところ、途上国ですか？それとも先進国？

浅田 生活していて楽しいのは途上国です。でも、私の根底には日本の技術力を海外に発信したいという思いがあつて。日本は色々下火にはなつてきているものの、特に農業の技術などやっぱり優れていると思うんです。となると、農業ベンチャーも選択肢に入りますよ。そうなるかと先進国になりますよね…

須藤さん 農業の生産ですか？販売ですか？(浅田：生産と回答)というよう

に、国際や農業って漠然とした言葉じゃないですか。なので、そこから落とし込んでいくという作業が必要になってくると思うんです。

「こうした考えの深堀りから国際農業のなかでも、これは好きでこれは好きじゃないっていうのが見えてくると思います。その一つが農業ベンチャーでキャリアイメージを掴みかけている感じがしますよね。」

農業技術っていうと、今では先進国を中心に都市型の水耕栽培や培養肉(Cultivated Meat)の製造なども行われ、農業の範囲が拡張していると思う。あらゆる情報に身をさらすような経験をする、もって視野が広がっていくと思います。

浅田 私、情報収集力が弱くて。みなさんどうやって、どんなコンテンツを使って情報を集めていますか？

須藤さん やっぱ詳しい人に出会って話を聞くことじゃないですかね。私が思うに、情報を持つる人には、より多くの情報が集まってくるように思っています。

眞鍋さん ちよつと思っただんですけど、この三人(アドバイザーの須藤さん、鍋田さん、眞鍋さん)ってお招き好きですよ。人好き。人と集まったり、集めたり、ワイワイ人と関わる事が好きというか。

みんながワイワイやりたい、この人と会いたい、話したい、と本能のままに人と接していれば情報って自然と集まるんじゃないかな。この話(座談会)みたい、どうですかーって聞いていけば情報って溜まると思う。

浅田 ちよつと意外でした。ネットを調べまくるとか、Etoに登録するとか

だと思っただので。

鍋田さん 絶対この人抑えなきゃいけないって人っていますよね。

眞鍋さん 鍋田さんは本能的に誰か分かっていますよね(笑)

「今後のキャリアに大学院は必須なのか？」

福井さん 高校卒業までは親の家業の柔整師を継ぎたいという思いがあったんです。

でも、柔道で進学したときに法学部に進んだので、夢が一度断ち切れた。柔整師の資格を取るにはまた専門学校に入る必要があったけど、もつちよつと視野を広げるために教職をとったんです(専門学校へは進まず)。

教職(社会と公民)は自分で決めた初めての進路で、気づいたらそちらが楽しくなっていた。が、教採に落ちて、JOCVにきたという感じです。

鍋田さん 福井さんのお話を聞いていて、とても賢い人だと思っただけです。

他の三人(熊澤さん、花里さん、浅田)は大学院進学の話が出てきていますよね。福井さんの話には大学院が出てきていないけど、スポーツの道に指導者として本格的に進むには大学院は必須では？

福井さん 熊澤さんの話なども聞いていて、本当にその道(大学の指導者)を極めるのであれば、大学院へ行つてちゃんとしたものが必要になってくると思います。

それを極めようとするなら、どのタイミングで行くべきか。先ほどの熊澤さんの話が引つかかっています。日本では学ぶのか、海外に行くのかも含めて。

須藤さん 理論を評価してくれる次の職場を目指すのか、実績を重視するのかわでも、進路が大学院進学だけに限りられないですよ。どれだけ勉強しても柔道の技が上手くなる訳ではないので。体の動かし方とか筋肉とか指導の仕方とかを学ばんですよね。

福井さん 柔道という専門の大学院は無いです。スポーツ医学や栄養とかっていう方向になる。学生時代から気になっていました。コーチとしてやっていくなら、何かしらの専門が必要になってくる。

花里さん 福ちゃん、料理とか好きだから向いてそうだね。

「多彩な働き方。長く続ける vs 色々試す？」

花里さん キャリアの道筋というよりは仕事のことについて聞きたくて。

JICAの企画調査員の仕事は色々な国に行けて色々な交流があるという魅力があるけれども、2、3年の限られた期間の中で、次のポストにずっとアプライしていくという働き方を私はしたことがなくて、そこに対するプレッシャーとかはあるんですか？

須藤さん 花里さんの悩みの中で、一生続けていける仕事とはなにかというものがありません。一生続けていきたいと思える仕事があるに越したことはないが、必ずしも終身雇用型である必要もないと考えています。

今では任期付き職員の仕事は人事異動に縛られない生き方だと思ってる。契約ベースのこの仕事は、自分がアプライしたところ以外には採用されないんです。ある意味キャリアを築いて

いくというポジションではないかと。一生続けたい仕事分野というのはやっぱりうちに気づいていけばいいと思っっています。最初のプランニングに基づいて、それに沿って生きていく、ではなくて、毎回走りながらプランニングしていくことを繰り返すという形がいいのではないかと気がしています。

花里さんの事前質問で、「協力隊と関係のない業界に行くことがもったいないことなのか？」ということですが、私は全然そのようには思いません。あくまでも協力隊経験が、自分の経験や教養として次に活かせれば、まったく違ふ分野でもいいと思う。何かをやったらキャリアが縛られるという考え方をしなくてもいいと思います。



でも、言い方を変えたら、そのまま続けていけば、もう少し上のポジションまで行けたかもしれないですよ。今後、この口スを繰り返すのが悩ましい。口スとどうするか新しい機会とどうするかだと思っただけです。

須藤さん 組織の中のキャリアアップとかポジションとか昇進を考えるとあればちゃんとした総合職を選んだほうがいいと思います。

例えばJICAの中でも様々な働き方がある、私(任期付き職員)は所長にはなれないわけですよ。重要視する点は何かということによって働き方が変わってくると思います。

真鍋さん 時間と金銭的に余裕ができればMBAを取りたいと仰っていますよね。

私の知り合いで、親にかなり余裕があつて出してくれるついでに、親のお金では嫌だとバイトしながら留学資金を貯めている若い子がいて、年は返つてこないし、行きたい気持ちがある時に借りて行って後で返せばいいのについで、プライドかな。そういう人には強く、奨学金を勧めます！(一同笑い)。財団がいっぱいありますし、なんならJICAも出てます。(帰国隊員奨学金事業)

「国際協力の仕事と家庭との両立」

浅田 少し趣旨は変わってしまつたのですが、国際協力の仕事と家庭との両立について聞かせてください。この仕事は海外赴任があるのですが、どのように家庭との折り合いをつけてきたんでしょうか。

真鍋さん (結婚する相手は)この業界

の人だといいかんとは思っていたんです。知り合いに、ご夫婦でJICAの仕事をして2年ごとに順番にやっている人がいて、子育ても含めうまく回しているなどでも回せるか回せないかは性格や価値観など個人差があると思います。

私のケースは結果シングルになり子供を連れてということ、一見大変そうですが、割と楽でした。(お子様を5歳から海外に帯同している)。個別専門家で、配属先も保健省母子保健局、イスラーム圏、女性のカウンセラーの多い職場だったので、出張は何が何でも日帰り。私の場合は大変ありがたかった。

今は子供の手が離れるようになってきました。実は子供が小学校卒業するまで海外出るのは待つてました。子供を基準に私のやりたいことを合わせた選択でした。

浅田 正直、子供がいることで選択肢の幅が狭まつて辛いと思うことはありましたか？

真鍋さん 子供だけで考えたらなかつたかな。私の子だからきつとあんたもこれ好きだよな(笑)。

幸いこの生活に馴染んでくれました。もし、これが無理だという子供だったら、私は仕事を変えていたと思います。

その覚悟で子供が生まれてから最初の1ヶ月の案件に手を挙げました。5歳児を一人で連れて行くつてすくなくチャレンジだなつて自覚はあつて、最初の1〜2か月で泣き叫んで無理だとなつたら、この仕事を辞退しようと思つてました。

当時の関係者の方、すみません。結果オーライでラッキーでした。

鍋田さん 結婚後の最初の10年間は



色々なバックグラウンドを持つ皆さんに、こういう仕事あるんじゃないかっていうのを聞きしてみたい。

鍋田さん いつも飲み会のときに話をすると、チームワークでやりたいと言っていますよね。だから、そこがポイントになるんじゃないですか？

真鍋さん 花里さんがお父さんとずっと議論をするという話が印象的で、自分を高めていこうとか、何かを追求するのが好きなタイプに見えるんです。なぜこの業界は向かないと思つたんですか？

家族3人一緒でした。その後、Bangラデシユから単身赴任に。イタリアは奥さんに仕事を辞めてきて貰つて帯同してもらい、妥協してもらつた。その際に奥さんが(仕事を辞めて)がくつと来てしまい、これはやばいと思つて、2年の任期で日本に帰つてきました。

今気づいたんですが、単身赴任の15年の間、基本的に毎日電話してました。

「どんな仕事に向いているか。計画された偶発性理論」

花里さん どの職業が私に向いていると思いますかというのを聞いてみたいというのも、協力隊に来るときにここから新しい切り口が開けたらいいなと思つていたんですけれども、国際協力業界が向いていないんじゃないかと思つてきていて。

帰国後のビジョンに、営業でも企画でもいいと思つて書いたが、今までやったことしか頭の中に選択肢がなく

須藤さん 好きこそものの上手なれだと思っんです。やっぱり自分が好きなきことを深掘していくことが重要だ。

その中で自分の嫌いなことも分かっていく。もし協力隊の経験で、この業界が向かないなと思っただのであれば、それも大きな前進だと思っんです。それは頭で考えてみても分からなくて、まずはやってみることが重要だと思っんです。ダメだったら次の道に進めばいいだけ。偶然に身を任せるということが大事だと思っんです。

キャリア論で「計画された偶発性理論」というのがある。個人のキャリアの8割は計画されていなかった偶発的な出来事によって起こるというものです。つまり偶然というのはすごく重要なんだという意味合いです。ただ、これには裏があって、偶然に身を任せるためには自分で積極的に行動し、しっかりアンテナを張っていないといけない、という条件が付くんです。

また最後にお伝えしようと思っただことは、将来設計を点ではなく「面」で捉えるということの重要性です。例えば花里さんの質問「何が向いていますか？」というの、何か一つを見つけてよとしていますよね。それよりも熊澤さんは面で捉えていて、あれもやれるかもしれない、これもやりたいたい。

将来設計って決して点じゃないと思っんです。つまり、的があって中心の点ではなくとも、的のどこかに当たればいいだろうと。スレスレでもいいから、その中に入っていれば一つのキャリアステップになるんじゃないかと。一つの的に当たればまた次の的が出てくる。そうやって、面で捉えて行けばいいという考えを持っていけばいいんじゃないかと思っんです。

「キャリア設計、将来デザインは有効か」

福井さん 今年27歳になるんです。自分の中でだいたい30歳までは色々なことに挑戦してみたいなと思っっていて、具体的にこうしていきたいなと思っっている。皆さんは今までの経歴で、いついつまでにこうしたいとか道筋を立てるってというのはしてこられましたか？

須藤さん いや、あまりしてないですね(笑)。実は、私も20代のころは同じような考えを持っていたんです。でも今36歳になって、今でももつと色々なことしたいと思っっている。それはそれでいいという自己肯定感に変わってきていて、それはさきほどの話のようにキャリアを面で捉えて行けば、次の方向性がまた見えてくると思っっているから。

かつての終身雇用制度はこの10年で大きく変わってきていて、雇用形態が多様化している今、きつと何かしらの働き口はどこかにあると思っっている。

鍋田さん 最近、熱で5日ぐらいい寝ていたときに次の就職をめぐって探していました。実は昔農業の会社に就職したときも、次の月には「次は何をやるか」という癖がありますね。そういう癖がありますね。JICAで25年働いて、若いころは須藤さんのように次はどんな新しいことをやろうかと考えていたけど、家族が転校が嫌というし、(奥様に)迷惑をかけるし、だんだん家族を優先する方に変えが変わっていった。安定って悪いものじゃないと思っました。



年ぶりに以前働いていた農業の会社に行っただけです。そのときにかつての同僚がほぼ誰も辞めずにいて、「ああ、この会社、めっちゃいい会社だったんだ」と思っった。女性や高卒の方も辞めずに働いていて、日本っていい会社がいっぱいあるんだなと思っった。当時は気づかなかつたけど、20年30年と地道にやっっている人がいて、自分はできなかったけど、こういう人たちが国を支えているんじゃないかと思っった。

日本の技術力とかいうけど、こういう人がいっぱいいる国って強いな。まあ、今となつては国力があかんとか言われていきますけど。(仕事を色々変えてきた)自分つてあかんと思っました。

バンングラ隊員時代(20代の頃)にいた機械関係の隊員が皆すごくしっかりしていて、自分がいかにバカだということを思い知った。これこそ日本の国力だと思っました。で、いつに何を決めなければいけないかが答えです。

座談会を終えて

後日、相談者の皆様に座談会に参加しての感想を尋ねてみました。

熊澤さん 「キャリアの8割は予想していなかった偶発的な出来事によって決まる」という言葉が非常にしっくりと感じられました。偶然を力にするために常にアンテナを張って行動していくことが大切であることを改めて気づかせていただきました。これから進む道において、進む先にある大きな目標が自分にとって何なのか。目指すものと重視するべき視点をはずりさせない。そこへ進むために、自分の中にあるキャリアデザインをイメージづくりをしておくことも道を具体化させるよい手立てだと学びました。

学びの多い貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。

花里さん お三方ともみんなが羨むキャリアなのに、ガツガツそれを目指して来たというよりは、好きを追った結果にこれがあつた。というのが一番印象的でした。軸がある人は強いなあ。対して、私が欲しい社会的評価・年収・やりがいとかがあって、とても相対的なものだなと思っ知らされました。任期の間に沢山自問自答してみます！

福井さん この度は貴重な学びの時間を用意していただきありがとうございました。参加した他の方々と比べ私は明確なキャリアデザイン等が

定まっていな中、丁寧にキャリアについてのご相談に乗って頂きありがとうございます。こんな道もあるのか。大学院に行くならこういう方法もあるのかと、実際に経験談を元に聞くことができて学びの時間になりました。

また、「キャリアデザインをする際にエゴを見たりするのも大事だが、それよりも、実際に色んな人と面を向かって話をして関係を作り、関係が出来た人たちからは多くの情報学びを得ることが出来る」との言葉を座談会で聞いた際にものすく私の中に残りました。柔道、スポーツ、日本人、外国人に限らず色々な人と今後に出会い沢山学び自分のキャリアデザイン、今後の私の人生になにか役立てて行けたらと思います。重ねてになりますが、貴重なお時間ありがとうございました。

浅田 目的意識を持って自分のキャリアを形成していくというのはあくまで一つの手段で、興味があるから勉強してみたり、そのときの環境で引き合わされたものをご縁と捉えるのもありだなあと思いました。

「キャリア形成はこうあるべき」と自分の中で視野を狭めていたように思うので、今回アドバイザーの方の多彩な経歴を聞いたのは、考え方の選択肢を増やす良い経験でした。自分の興味は何か、改めて考えたいと思います。(が、帰国したらバイトしないですね…)

編集後記



僭越ながら委員長として機関紙の編集に携わりました。といっても、私が委員長らしい動きをしなくても素晴らしいページが量産される55号の機関紙メンバーでした！さまざまな職種・年代の方が力を合わせるからこそ、アイデア豊富で斬新な機関紙となりました。
みなさんが55号Drukを楽しんで読んでくださり、また次号につながることを願っています。
寄稿・作成にご協力いただいた隊員の皆様、JICAスタッフの皆様、本当にありがとうございました！

大内巴瑠子



55号の全体編集を担当させていただきました。皆さんに書いていただいた記事を皆さんがブータンで活動していた記録として、そして後で見返した時には楽しい思い出として、この隊員機関紙に残せる事を大変嬉しく思います。

鈴木育則



隊員の方々が持っておられる専門的な知識や経験はもちろんのこと、ユーモア溢れるアイデアや文章に、機関紙委員として楽しませていただきました。改めてここブータンで皆さんとお会いできたご縁に感謝します。ありがとうございます。

熊澤美帆



皆さまお疲れ様でした。個人で書く記事に加え、複数の隊員が作るページも欲しいと考え、座談会を提案してみました。文字起こしが思った以上に大変でしたが、座談会は面白かったです。ありがとうございました！

鍋田肇



いつもの「宿題は最終日」精神で締切ギリギリ(というかアウト)の提出でしたが、委員会の皆さんと楽しく協力して完成させることができました！たくさんの方に読んで貰えると嬉しいです。

浅田瑠理



機関紙が届く頃には、春を迎えシャクナゲが色鮮やかな花をつけているものと思います。ブータンでも何気ない季節の移り変わりを楽しめるものですね。編集、ご苦労様でした。

江面和彦



昨シーズンの冬は、こちらの寒さと極度の乾燥にかなりこたえました。今シーズンは、昨シーズンより暖かいのか、それほど苦痛ではありません。3月になると木にきれいな花が咲きだします。それまであと少し、冬を乗り切りましょう。

新保比奈子

機関紙委員会メンバー紹介

大内いいんちょと愉快的な仲間たち



江面和彦

鈴木育則

大内巴瑠子
熊澤美帆

新保比奈子
浅田瑠理
鍋田肇

ブータン隊員機関紙

Druk 第55号

発行者：機関紙委員会

発行日：2024年2月29日

